

7章 情報検索とデータベースの 指導法(前回の続き)

データウェアハウス

- 業務データベース
 - 予約や取引業務に使用するデータの保存
- 情報系データベース
 - 業務から得られたデータの蓄積と分析に活用
 - 系統的に設計され、業務活動の多面的な分析に活用できるものがデータウェアハウス
- データマイニング
 - データに隠された特性を発見

8章 情報モラル・情報倫理の 指導法

情報倫理

- 情報化社会における**秩序維持**のために、**利用者**、**管理者**が知らなければならない**知識**（メタ知識を含む）
- 「一方的な押し付け教育」になりがち
 - 「**ルール**」, 「**規則**」, 「**法律**」を含む

情報倫理教育

- 情報社会、情報化社会の**成立ち**
- 技術的**背景**の理解、危機管理の**考え方**
- 情報社会、情報化社会において、人はどのように生きるべきか、人はどのようにふるまうべきかを**考える態度**

押し付けによる単純記憶(教育目標はたてやすい)



秩序維持の達成効果は低い

情報モラル・情報倫理

- 計算機教室・ネットワークの利用規則
- 利用規則の主旨
- 集団・組織における行動基準
- 俗に「有害コンテンツ」と呼ばれるものの基準
- 大原則、黄金律
- 矛盾した状況におけるよりどころ

扱う内容の階層化

- 規範倫理としての黄金律
 - 規範倫理（道德規範のあり方、善とは何か）
 - 黄金律（自分に対するのと同じように他者に対せよ）
- 応用倫理としての情報倫理
 - 情報化社会における秩序維持のために、利用者、管理者が知らなければならない知識
- 頻繁に変わる情報技術・情報インフラの知識
 - エチケット、ネットワークトラフィックの現状認識

扱う内容の階層化

- モラルと情報モラル
 - 情報化社会におけるモラル
 - モラル(規範に対する内面的な態度)
- 情報モラルと情報倫理
 - 情報機器や情報インフラの影響
 - 情報モラルと情報倫理の区別はつきにくい
- 関連法令(著作権と個人情報保護)
 - 著作権法(剽窃を防ぐ)、個人情報保護法
 - 複製権

扱う内容の階層化

- 情報危機管理

- 事前対応

- 危機が起こらないようにする対策を講じておく

- 事中共応

- 危機が起こったときに対応する

- 事後準備

- 危機発生時の処理方針をあらかじめ決めておく

- 事後対応

- 危機発生後の復旧計画をあらかじめ決めておく

情報モラル教育・情報倫理教育

- 情報モラル

- 黄金律などの存在の意識
- 内的な行動規範であるモラルの重視

- 情報倫理

- 情報化社会の成り立ち
- 技術背景の理解、危機管理の考え方
- どのように生きるべきか、ふるまうべきか

情報化社会

- ネットワーク社会
 - 掲示板, メーリングリスト, 電子メールなど
- 情報通信ネットワークと結びついた社会
 - 銀行の預金残高, 新聞記事による人の知識の変化
- 情報通信ネットワークの処理能力を前提として成り立っている社会
 - 航空管制など

情報モラル・情報倫理授業方法の分類

- 疑似体験型

- 情報倫理ビデオの活用
- 新聞、テレビ、Webページ等の活用

- 避難訓練：ロールプレイング型

- 疑似体験型教材で正しい知識を習得
- 仮想的にトラブルを体験

- レポート・プレゼン型

- 疑似体験型教材で正しい知識を習得
- トラブルへの対応を発表

具体的な授業例

- 剽窃
 - 他人の著作物を無断借用
 - 素人の著作物は見破るのが難しい
- チェーンメール
 - 献血依頼のメールが100MB(送るべきか否か)
- 掲示板でのケンカ・いじめ
 - 学校カウンセラー、弁護士・警察との連携
- ネット中毒(ゲーム、動画サイト、SNS、プロフ)
 - 自覚しつつも止められない

情報倫理教育

- 矛盾状況
 - 対立する利益構造の存在, 判断基準の変化など
- 運用面での事件・事故の実例
 - 技術, 法律, 制度, 教育, 宗教, 政治
- 学校環境における事件・事故
 - フロッピィの紛失, ネットワークトラブルなど